

臨時休業課題（一学年）

身近な動植物の名を覚えよう（教科書十三頁～十九頁）

漢字

□ 次の太字の仮名を漢字に改めよ。

- 1 記憶をそうしつ 「 する。
- 2 世界をこうちく 「 する。
- 3 ぐんしゅう 「 に混じる。
- 4 自分とはむえん 「 の人。
- 5 ゆうき 「 化合物。
- 6 めいし 「 を交わす。
- 7 れいぎ 「 作法。
- 8 意見をこうかん 「 する。
- 9 生活の中のしゅうかん 「 。
- 10 規模をかくだい 「 する。
- 11 自然をかんしょう 「 する。
- 12 こうがい 「 にある森。
- 13 わんぱく 「 小僧。
- 14 学生にこうぎ 「 をする。
- 15 優れたぎょうせき 「 。
- 16 りれき 「 を明らかにする。
- 17 ヒヒの顔のとくちょう 「 。

□ 次の太字の漢字の読みを記せ。

- 1 名状 「 しがたい不安。
- 2 金属が腐食 「 する。
- 3 匂いを嗅 「 ぐ。
- 4 覚えることを勧 「 める。
- 5 紅葉 「 狩りの伝統。
- 6 路傍 「 に咲く花。
- 7 気にも留 「 めない。
- 8 神秘 「 な美しさ。
- 9 血の通った温 「 かさ。
- 10 すっかり幻滅 「 する。

- 11 奇異「 」な目で見られた。  
12 日本を訪「 」れる。  
13 意外な話に仰天「 」した。  
14 立派にやり遂「 」げる。  
15 名前を媒介「 」にする。  
16 響「 」きのよい名。  
17 四季の彩「 」り。

語句

二次の太字の語句の意味を調べよ。

- 1 名状しがたい不安に陥る。  
「 」  
2 具体的な処方箋。  
「 」  
3 向こう見ずなわんぱく小僧。  
「 」  
4 血の通った温かさが必要である。  
「 」  
5 処置に困ったあげくの果てに、捨ててしまった。  
「 」

二次の空欄に適語を入れよ。

- 1 ふと「 」を留めた絵。  
2 早春の「 」を切って歩く。  
3 ユニークな思考の「 」がわき出る。

三次の語句の対義語を書け。

- 1 無機 ↑↓「 」  
2 具体的 ↑↓「 」  
3 困難 ↑↓「 」

## 臨時休業中課題（定時制課程 2 学年）

4/8（水）～4/14（火）

下記科目の課題に取り組み、予習・復習し新年度の学習に備えてください。

国語総合：教科書 p.93～ 「人はなぜ仕事をするのか」を読んで、意味調べ、新出漢字の練習をする

数学Ⅰ：教科書 p.54～p.61 「関数とグラフ」を読み、予習しておく  
教科書 p.77 「2次方程式」を読み、2次方程式を解けるように復習しておく

英語Ⅰ：教科書 p.58～ 「Lesson 7」を音読できるようにし、新出単語の意味調べ、英文和訳をする

科学と人間生活：教科書 p.86～p.93 2編「物質の科学」2章「衣料と食品」1「衣料」をよく読んでおくこと

体育：動ける範囲（無理のない範囲）で体操、ストレッチなど体を動かしておくこと

三年生(「現代文B」) 四月臨時休業期間(4/8水~14火) 中課題

◎ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

こそそめスープ  
村田沙耶香

私は、大学を卒業して一年くらいつまで、コンソメスープをコンソメスープだと思っていた。片仮名だと分かりづらいと思うが、「こそそめ」だと思っていたのだ。

なぜ大人になるまで間違いに気づかなかったのかと思うかもしれないが、私は現実を改ざんしてまで、ずっとそれを信じ続けていた。皆が、そのスープを「こそそめ」と呼んでいることには気づいていた。けれど、私は自分の頭の中を修正しなかった。皆が「こそそめ」という言葉を口にする時、彼らが飲んだり手にしたりしていたのは缶やレトルトのコンソメスープだった。私は、皆はそのせいであえて「こそそめ」という間違った呼び名で呼んでいるのだろう、と勝手に解釈した。そこから、レストランで本当のシエフが作った本物のそのスープだけが「こそそめ」という正式名称で呼ばれる権利があるのだろう、と勝手な思い込みは発達していった。

私はあえて買って飲むほどそのスープが好きではないが、きつとレストランで出される本格的なものさぞかしおいしいことだろう。その時こそ、「これはおいしい! これはこそそめスープだね。」「本当ね、これはレトルトのこんそめなどとはひと味違うわ。これこそ、本物のこそそめスープだわ。」などという会話が交わされるのだろう、と想像していた。いつかちゃんとしたレストランで、「こそそめ」の称号を与えられる本物のそのスープを飲んでみたいなあ、と思っていた。

大学を出て一年ほどして、私はファミレスでアルバイトを始めた。そのファミレスはチェーンにしては本格的な料理を出すことが売りな店だった。

ある朝、私は一人の常連のおじさんにコンソメスープを運んでいた。料理に自信がある店だけあって、それは本格的でおいしそうだった。私は(ちよつと手前みそかなあ。)と思いながら、「お待たせしました。こそそめスープでございます。」と、そのスープをうやうやしくおじさんのテーブルに置いた。

いつも無口で不機嫌そうなおじさんは私のせりふを聞いてびくつと肩を震わせ、ものすごい勢いで顔を上げ、私の顔を凝視した。おじさんの激しいリアクションを見て、(ああ、やっぱりファミレスのスープが「こそそめ」を名乗るなんて、ちよつと凶に乗りすぎていたんだ。)と思った。しかしその時頭の隅で、(ひよつとしたら、こそそめスープというものは、この世に存在しないのではないか。)という考えがひらめいた。

そんなわけないと思いつつなんとなく引つかかった私は、バイトを終えたと友達にこそそめスープについてメールしてみた。「何それ! 意味が分からないよ!」という返信を見て、私はこの世にこそそめスープが存在しないことを知った。

その日からしばらくはおかしくしようがなくて、その話を家族や友達に話して大笑いして過ごした。だが、それからいくらか日があつても自分の中から「こそそめスープ」という存在が完全に消滅することはなかった。理屈では自分の勘違いだと分かっている、安いチェーンのお店でカップに入ったコンソメスープが出れば、(これはこそそめとはどうい呼べないな、こそそめだな。)と思ったり、ちゃんとしたレストランでメニューにコンソメスープの文字を見つければ、(これはこそそめにちがいない。)と思ったりした。

思えば、もう二十年以上もこそそめスープのある世界で育ち、生きてきたのだ。私は、それがうそである世界には、もう戻れないのだ。

いろいろ考えてみた末、私はこれからもこつそりと、こそそめスープのある世界で暮らしていくことにした。さすがに口にはほしくないように気をつけるようになったが、心の中では、いつまでもこそそめスープという概念を消さずに生きていくことに決めた。もちろんそんな言葉ほどの辞書にも載っていないし、こんそめが正しいのも知っているが、私が二十三年間信じていたのだから、ある意味では私にとってはこそそめスープのある世界のほうが真実なんじゃないかと思うのだ。

私のようなケースでなくとも、人は皆、自分の作りあげた思い込みの世界で暮らしているところがあるのではないだろうか。ある道を歩いていても一人はそこが新宿方面につながっていると言っていて疑わず、もう一人はこの先は公園になって行き止まりになっていると主張する。たとえ現実にはその道は二年前に工事されて渋谷方面につながるようになっていたとしても、二人は違う現実の中を歩いている。

そんなふうになると、今、同じ場所を歩いている隣の人も、その隣の人も、自分の作りあげた異世界で暮らしているんだと思えてくる。同じ場所を歩いている、脳が違う限り、私たちは違う光景の中にいるのだ。

私には、それがすごく楽しいことに思える。それぞれの世界を歩き来たきたらもっと楽しいのになあと思う。隣の人の住む世界に遊びに行き、その脳を持っていく情報の中で日常を過ごす。それは私の住む世界とは全く違う異世界だろう。こんなにそばに異世界への扉が無数にあるというわけだ。そのドアを、ぜひ開けてみたい。

そしていつか、私の住む世界にも遊びに来てほしいと思う。その時は、ぜひ、いっしょにこそそめスープが飲みたい。私の住む異世界に遊びに来てくれた人といっしょに、生まれて初めての本物のこそそめスープを味わえたら、とてもうれしい。

問一 「こそそめスープ」とは何か説明しよう。

問二 筆者のファミレスでの出来事を説明しよう。

問三 「こそそめスープ」に関するさまざまなことから、筆者が考えたことを説明しよう。

問四 次の傍線部の漢字の読みを書こう。

- ① 握手を交<sup>あ</sup>わす。
- ② 店の常<sup>とこ</sup>連。
- ③ 声を震<sup>ふる</sup>わせる。
- ④ 廊下の隅<sup>すみ</sup>。
- ⑤ 異世界の出来事。
- ⑥ 相手を凝<sup>こ</sup>視する。
- ⑦ 擬人法の表現。
- ⑧ ぜいたくな暮<sup>くらし</sup>らし。
- ⑨ 故郷を慕<sup>も</sup>う。
- ⑩ 賛同者を募<sup>も</sup>る。

問五 次の傍線部の仮名を漢字に直そう。

- ① 間違<sup>まちが</sup>いをシュウセイする。
- ② カンジュース。
- ③ 古文カイシヤク。
- ④ キゲンを損<sup>こ</sup>なう。
- ⑤ はげしい争<sup>ま</sup>い。
- ⑥ リクツに合<sup>あ</sup>わなない。
- ⑦ カンちがい<sup>か</sup>いに気<sup>き</sup>づく。
- ⑧ 宇宙のガイネン。
- ⑨ と<sup>と</sup>なりの席。
- ⑩ ジョウホウ化社会。
- ⑪ とびら<sup>と</sup>絵。
- ⑫ ソツギョウ証書。
- ⑬ インソツの先生。
- ⑭ 名誉教授のショウゴウ。
- ⑮ 原本とショウゴウする。
- ⑯ ショウゴウ登記。
- ⑰ バスにの<sup>の</sup>る。
- ⑱ 新聞にの<sup>の</sup>る。
- ⑲ スノウ明晰。
- ⑳ グノウの色が濃<sup>こ</sup>い。

問六 筆者の考えも参考にして、あなたの三年生の目標を書こう。



# 臨時休業における 4 学年（建築土木科・機械科）課題

仙台工業高等学校 4 学年

## 建築土木科

「身近な構造物を見て、その中に生じる力の流れを考えてみよう」

## 機械科

「機械設計の昨年度分の学習内容を復習しましょう」

書道：別紙プリント

小筆を用意して下記の文字を繰り返し練習しましょう。

